

福田十二神楽の神楽師を募集します！！

ししまい
獅子舞
かぐら
「神楽をやってみるか？」

ししまい
獅子舞だまし
おし
「く、くわしく教えてくださいな」

てんぐ
天狗
ふくだじゆうにかぐら
「福田十二神楽はみんなが1年
かんしあわす
間幸せに過ごせるように福田の
かみさまねが
神様をお願いする踊りでな。十
におどななまれんしゆう
二の踊りを仲間と練習して、神
じゃまつひろ
社のお祭りで披露するのじゃ。」

かすがみょうじん
春日明神
かぐら
「神楽をやると集中力やコミュニケー
のうりよくしゆたいせい
ション能力、主体性などがたかめら
れるぞ！」

あおおに
青鬼
「え？ そうなの」

あかおに
赤鬼
き
「そういえばそんな気が...」

みょうじん
明神3
としちか たのれん
「歳も近いし楽しく練
しゆう
習してるよな！」

みょうじん
明神1
おし
「だれが教えてく
れるんだっけ？」

みょうじん
明神2
まえ だい にい
「前の代のお兄
さんたちだろ」

ししまい
獅子舞だまし
「かつこいいし、やってみよ！」

年齢:	小学1年～6年生(H31年度時点)
活動期間:	7年間
活動時期:	5月、11月(2週間程度)
人数:	10名程度
費用:	無料
衣装等:	神社より貸出

お問合せ先:

福田鎮座 諏訪神社 [HPからもお問合せいただけます](#)

TEL:0244-62-2371

[福田諏訪神社](#)



■ ご家族の皆様へ

この度、福田十二神楽23代目神楽師募集についてご案内させていただきます。

平成30年11月3日をもって現22代目神楽師は7年の役割を終え、代替わりを予定しております。福田十二神楽は150年以上にわたり福田地区の子供たちによって継承されてきました。“大きいお兄さんたち”と“小さい男の子たち”が継承のために真剣になって取り組む場では、お互いに良い影響を及ぼす要素にあふれています。特に次の3点は社会に出るうえでも重要であります。いずれも短期的な指導では身に付きにくいものです。神楽の継承では先生と生徒という独特の関係性の中、長い時間をかけてこれらが自然に育まれていきます。

「集中力」

限られた期間で、“太鼓”“踊り”“着物の着方”を覚えるためには、集中して練習をしなければなりません。神楽は黙想に始まり黙想に終わります。練習前に集中力を高め、練習後に今日の練習を振り返ることで、短い時間で覚えることができます。これは神楽だけでなく、集中して勉強をすることやスポーツ(部活)にも生きてきます。

「コミュニケーション能力」

神楽師は1年生から6年生までの異学年で構成されます。異学年で活動することで、自分とは違う立場の人のことを考え思いやる心を育むことができます。また、神楽を教えてくれる先生は、自分たちの一つ前の代のお兄さんなので、神楽を通して先生と生徒がコミュニケーションをとりながら一緒に成長していきます。その中で、礼儀や言葉遣い、人に物事を伝える・理解する術を自然に身につけていきます。これらのつながりは、子どもたちが神楽を終えてからも続き、大きな財産となります。また、神楽師のときに培ったコミュニケーション能力は社会人になってからも役立ってきます。

「主体的な活動」

「人がやっているのを見て覚える」といった行動は自身の主体性を高めることに繋がります。神楽師は笛太鼓、踊り、道具の作り方・使い方、神楽師の活動運営に至るまで、自分に与えられた役割以外のことも真剣に見て学ぶことを先生から徹底して教えられます。子供たちは自分が生徒に教える立場になることを意識し、見ることに真剣に取り組みます。これにより何事にも主体的に取り組む姿勢が自然と身に付いていきます。

近年は子供たちのライフスタイルも多様化してきており、神楽師になったことでのお子様のご負担を心配されるご家庭もあるかと存じます。諏訪神社および福田十二神楽保存会では、お子様の状況に柔軟に対応できるよう、サポートの拡大を目指していきたくと考えております。

11月の諏訪神社例祭では現22代目神楽師が最後の舞を披露いたします。お子様の成長のイメージをご覧いただく良い機会かと思っておりますので、お子様連れで是非お祭りまで足を運んで神楽師を見て頂ければと思います。

終わりに、福田地区は少子化により対象となるお子様が少ない状況ではありますが、古来から続いた伝統的文化を次世代へつなぐため、皆様のご理解と一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。